

無形文化財調書「地芝居振り付け」

平成28年12月 恵那市生涯学習課 作成

【東濃の地芝居】

・地元民が演じる対話劇的な地歌舞伎、獅子芝居、操り人形浄瑠璃、それらの源流である能・狂言を合わせて「地芝居」という。中でも、岐阜県は地歌舞伎が特に盛んで、神奈川県(相模)、兵庫県(播州)とならび「日本三地大歌舞伎」の一つとされる。

・岐阜県には、全国最多の29の地歌舞伎保存団体が活動しており、うち半数以上が東濃地方に集中している。平成22(2010)年、大歌舞伎で見られなくなった演目や特有の振り付けの継承に活発に取り組んでこれらの保存会の活動と、昔ながらの芝居小屋が数多く保存活用されていることが高く評価され、「東濃の地歌舞伎と芝居小屋」が「岐阜の宝もの」に認定された。

【地芝居を支える振付師】

・この地域では振付師を師匠と呼ぶ。
・振付師の仕事は、名前だけ聞くと、役者にセリフや身振りを教えるのが主な仕事のように思われがちだが、地芝居のそれは、出演者の名簿を見て演ずる外題を決め、配役を決め、役者にセリフや身振りを教え、立ち回りの構成を考え、役者と裏方をまとめて本番に向けた下ごしらえをしていき、当日の舞台では、拍子木やツケを打ったり、陰でセリフをつけたり、黒子になって後見役をしたりと、裏方の仕事もこなす芝居の総合プロデューサーである。

【岐阜の主な振付師と指導している団体】

■市川福升師

佐見・白雲座・鳳凰座・村国座

・市川福升師は江戸系(江戸の市川三枰門下)で大歌舞伎に見られる振り付けが特徴である。

■中村高女師

恵那・東野・東濃歌舞伎中津川・蛭川・常盤座(中津川市福岡)・東座(白川町黒川)

■松本団女師

飯地五毛座・山岡・串原・上矢作・明智・坂下・加子母・東白川・可児・美濃(瑞浪市)

■地元古老系

高雄(郡上市)・河合町(飛騨市)・乙原(揖斐川町)・安岐(中津川市)・三郷(始め松本、のち中村、現在は地元)

※(安田文吉氏解説参考映像) <http://www.jikabuki.com/costume/interview/index.html>

【中村高女師の振り付け】

・養父母が大阪の初代加賀家津多七門下のプロの役者で、その養父母とともに全国を巡業し、3歳で初舞台を踏み、その後役者として芸道を極めたため、その芸風は上方系の振り付けで、今の大歌舞伎には見られない振り付けが見られる。大歌舞伎より分かりやすい演出となっている（江戸は荒事、上方は和事）。松本団女師も上方系の振り付けである。

・地元に伝わる古台本を基に復活上演された芝居の振り付け指導及び衣装の監修なども行っている。

「弓張月源家鑄箭」(H1)「大石東下り」(H12)「増補八百屋献立」^{こわなきけやまにきくはな}「剛情山咲花」(H22)

「染模様妹背門松」(H25)「壽門松」^{ねびまのかどまつ}(H26)「天下知桔梗旗上」^{あめがしたるききょうのはたあげ}(H26) など

・プロの役者であったため、芝居は「仕事」という意識がある。また、役者だけでなく、養父母の弟子として後見（黒子）もよく務めたので、芝居全体の流れや内容を熟知している。そのため、その振り付け指導は厳しく、細かい所作や昔からの型を大切にした完成度が高い振り付けを行っている。また、舞台だけでなく、上演芸題の役者の衣装、襦袢の衿の色、下履き、帯など、それぞれの決まりごとに合わせて準備し、着付けを行う衣装立てや着付けなどの裏方の仕事も指導されている。

・地芝居は、素人役者が演じ、役者と観客が芝居を「楽しむもの」でもある。従って、素人役者の技量を見極めながら、完成度を高めるだけでなく、その技量を最大限に活用した演出を行い、楽しめる舞台へと仕上げていく（本歌舞伎にはない地歌舞伎独特の芸風）。

・師匠が振り付け指導を行っている地歌舞伎団体は6団体で、弟子による一門会の「加賀家会」が平成10年に結成されている。

・同じ地歌舞伎を継承していても、それぞれの保存会にはそれぞれの持ち味があるので、それを大切にしながら、よりよい舞台に仕上げるよう心がけている。

（指導団体概要）

■東座芸能保存会（加茂郡白川町黒川）：平成2年、新生東座竣工とともに発足

■恵那歌舞伎保存会（恵那市）：平成11年、ライオンズクラブ有志「獅子座」が役者会員として加入して公演活動復活

■東濃歌舞伎中津川保存会（中津川市）：「新鋭常磐劇団」→昭和40年東濃歌舞伎保存会設立・」加盟し「東濃歌舞伎保存会中津川支部」に改称→平成3年現在名に

■東野歌舞伎保存会（恵那市）：芝居小屋「恵東座」で活動するも昭和47年舞台取り壊しとともに活動休止。平成3年秋に復活し東野小学校体育館で公演

■蛭川歌舞伎保存会（中津川市）：昭和24年「蛭子座」を蛭川公民館に改築。昭和40年代半ば以降衰退するも平成2年、保存会が復活。蛭子座も改修

■常盤座歌舞伎保存会（中津川市）：昭和52年常盤座改修に合わせて高山歌舞伎保存会結成、平成6年福岡町歌舞伎保存会に改称。常磐の石をげんをかついで皿にし、現在は常盤座という名称に統一

【振り付け指導の様子】



中津川市神代獅子会館

平成28年2月

「神霊矢口渡 頼兵衛住家の場」



平成25年2月

「御所桜堀川夜討 弁慶上使の場」



平成28年10月

中津川市蛭川 蛭子座

「菅原伝授手習鑑 車曳きの場」



岩村城周辺市有地の文化財追加指定について

■取得目的

国有林に囲まれた江戸時代の岩村城跡（岐阜県指定史跡）、国有林内に点在する中世・戦国時代の遠山氏が築いた遺構を保護して活用するとともに、景観の保全と眺望の確保、植生の多様性の維持・向上を図るため。また、城下町から近い立地のよい個所であるので、適切な植生管理及び林内の既存歩道の補修を含めた整備等を行うことにより、城下町を訪れる観光客等に城山の多様な自然と歴史を楽しんでいただくことが期待できる。

■取得日：平成 28 年 3 月 28 日

■取得した財産 岩村国有林 1104 林班（全て）並びに 1105 林班（ろ小班）の土地及び立木

■取得金額 123,600 千円（内訳…土地 16,182,120 円、立木 107,417,880 円）

■取得の方法 随意契約

■取得の相手方 中部森林管理局長

■土地の所在地等

土地の所在地	現況地目	実測面積（㎡）	所有者
恵那市岩村町字城山 3 番 35	保安林	236,687.36	農林省
恵那市岩村町字城山 3 番 36	保安林	6,384.74	農林省
恵那市岩村町字城山 3 番 37	保安林	8,567.14	農林省
恵那市岩村町字城山 3 番 38	保安林	23,440.61	農林省
合計		275,079.85	

■立木の樹種等

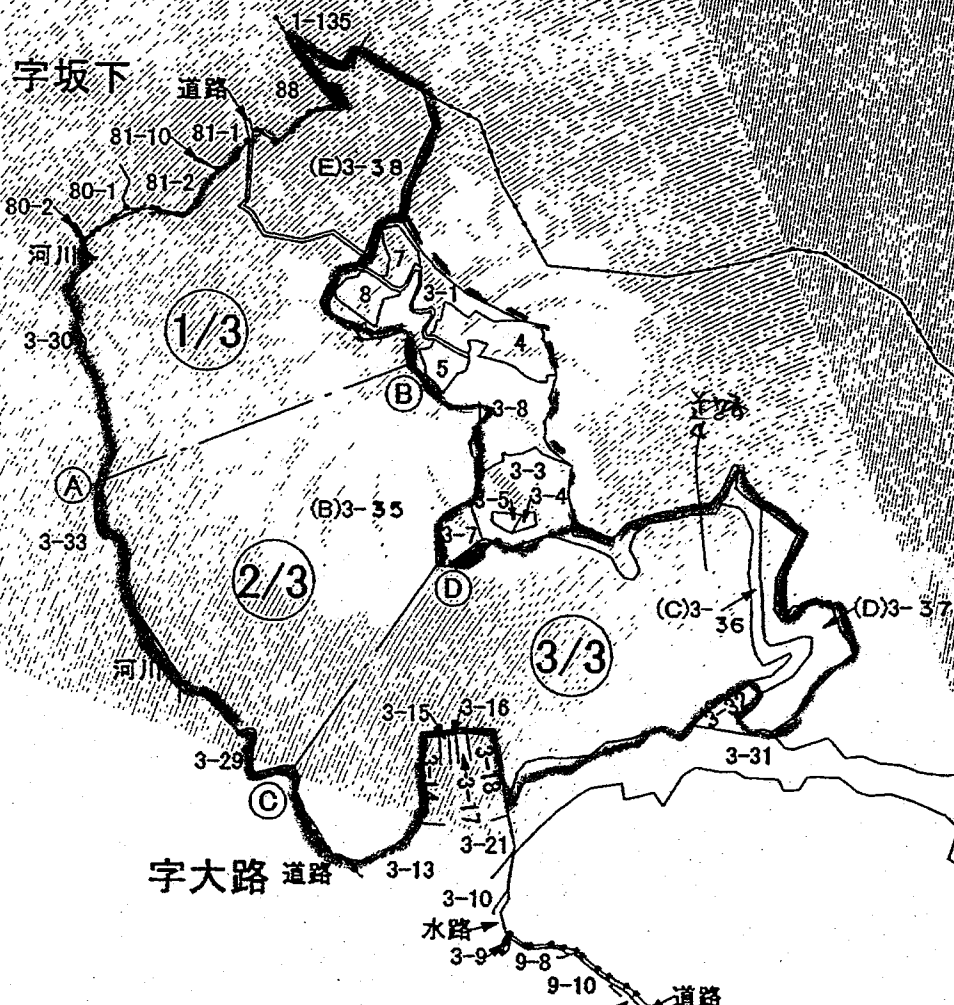
樹種	本数（本）	材積（㎡）	備考
ヒノキ	13,213	4,863.49	
スギ	2,702	3,990.02	
モミ	960	2,307.55	
アカマツ	634	722.07	
その他	1,615	1,156.47	木曽ヒノキ、ネズコ、サワラ、ヒメコマツ、ツガ、クリ、ナラ、ケヤキ、サクラ、イタヤカエデ、トチノキ、ホオノキ等
合計	19,124	13,039.60	

■取得後の整備内容

- ・岩村城山整備活用計画の作成（石垣保全、景観保全、曲輪保全、防災対策等）
- ・眺望確保のための樹木伐採
- ・城山観光道路の路肩法面にある危険木伐採
- ・出丸・帯曲輪付近の路面補修
- ・森林整備（下刈りや間伐）
- ・間伐材の活用
- ・城下町との連携促進

■岩村藩主邸跡地について

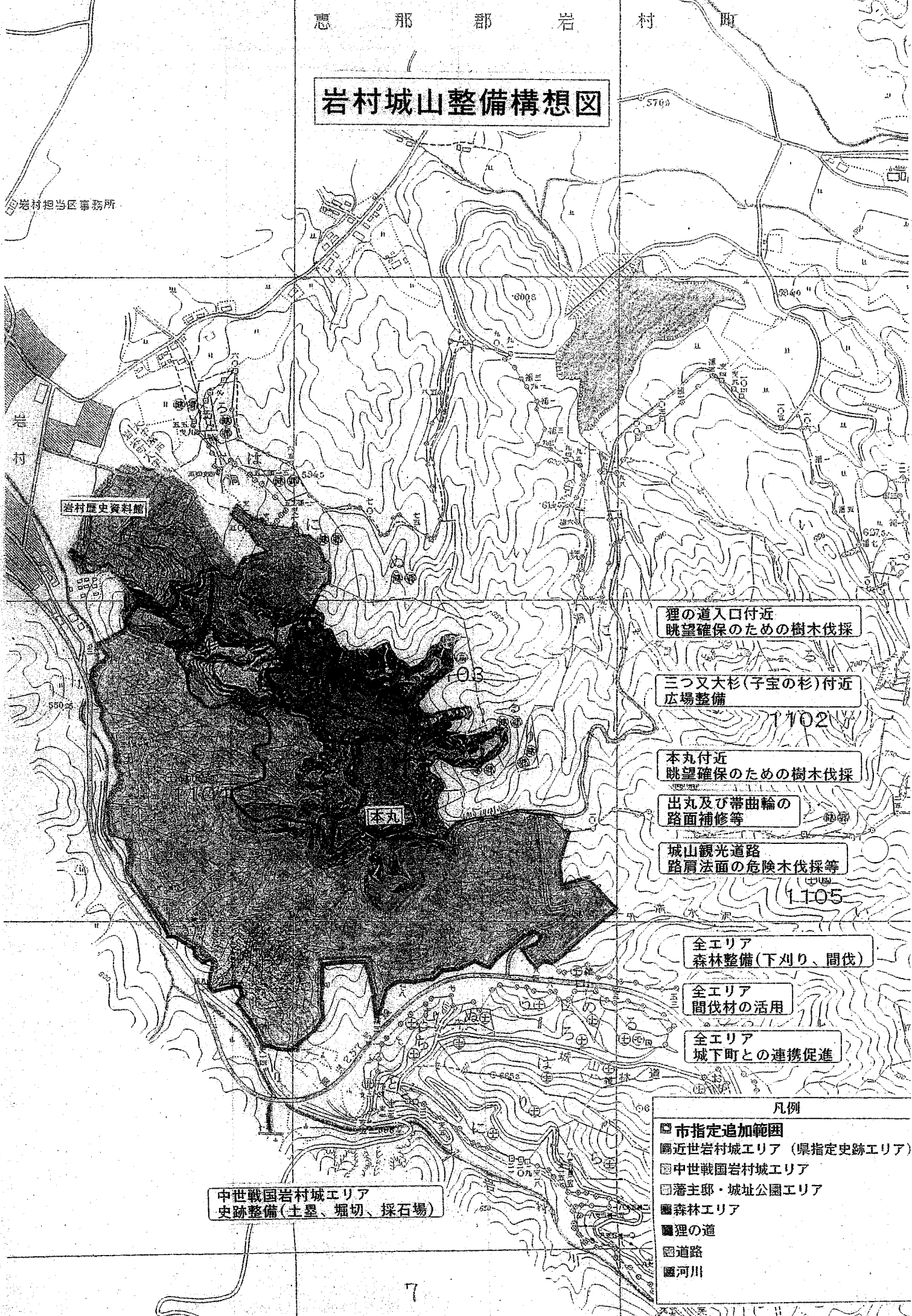
- ・藩主邸は、現在県指定であるとの一般認識があるが、平成 28 年現在において県も市も文化財指定を行っていない。（岐阜県教育委員会に確認済み）
- ・藩主邸は、岩村歴史資料館があり、往時の様子を偲ぶ遺構なども皆無であること、またイベントなどで使用しているため、指定文化財とすると規制がかかることになる。よって、このまま藩主邸跡地については、無指定のままでいきたい。



--- 県指定範囲
— 市追加指定範囲

岩村城山整備構想図

岩村担当区事務所



狸の道入口付近
眺望確保のための樹木伐採

三つ又大杉(子宝の杉)付近
広場整備

本丸付近
眺望確保のための樹木伐採

出丸及び帯曲輪の
路面補修等

城山観光道路
路肩法面の危険木伐採等

全エリア
森林整備(下刈り、間伐)

全エリア
間伐材の活用

全エリア
城下町との連携促進

中世戦国岩村城エリア
史跡整備(土塁、堀切、採石場)

凡例

- 市指定追加範囲
- 近世岩村城エリア(県指定史跡エリア)
- 中世戦国岩村城エリア
- 藩主邸・城址公園エリア
- 森林エリア
- 狸の道
- 道路
- 河川

古屋家長屋門調査結果について

特定非営利活動法人 犬山城下町を守る会

長谷川 良夫

1. 長屋門の現状について

ア. 長屋門は城門である。但し、城門としては正面冠木から下の部分のみである。写真 1～12 参照
正面の鏡柱は太さ 1 尺 7 寸 5 分、冠木は約 2 尺で木太く、門の正面幅は約 3 間である。冠木～礎石 12 尺、飾り金具も多い、古屋家では岩村城の門との云い伝えがあるとのことである。城門としても重要な位置の門と見て間違いないものと思われる。

本陣の門、家老屋敷の門との説もあるようであるが、これだけ木太い柱は城門或いは社寺の門以外では無いと思われます。

参考までに他の例を調査しました。

① 旧犬山城内田門(瑞泉寺山門) 写真 24～30 参照

鏡柱 1 尺 8 寸×7 寸 冠木 丈 2 尺×8 寸 5 分 正面幅 3.43 間 冠木～礎石 12 尺

この門は犬山城の東側を守る門であるが、付近は湿地帯で裏門の扱い、だったのであろう、飾り金具が少ない。移築時に四脚門に変更されているが、当初は櫓門であった。

この門は、古屋家の門と規模が概ね一致し、復元の考察をする際には参考になる。

移築をする際に 2 階部分は不要とし、桟梁から上は北側の米蔵に合わせ、小屋組みから新材で造ったものであろう。

② 旧犬山城松の丸御殿 裏門(常満寺山門) 写真 19～23 参照

四脚門で、構造体を変えずに移築されている。飾り金具は少ない。裏門の為であろう。

鏡柱 1 尺 4 寸×7 寸 冠木 1 尺 9 寸×7 寸 5 分 正面幅 1 間半 冠木～礎石 10 尺
小規模の門であるが鏡柱、冠木は木太い造りである。

③ 御嵩町 伊佐治家住宅長屋門 写真 31～34 参照

江戸幕府旗本の妻木氏の代官を務めた家柄で、身分では古屋家と同程度の家柄である。

長屋門 鏡柱 8 寸×4 寸 冠木 丈 1 尺×4 寸 5 分 正面幅 2.3 間 飾具は少ない。

主屋は元禄初期の建築、天保八年の祈祷図により屋敷の規模が分かる。書院造りの座敷、離れ座敷、土蔵 3 棟、その他木小屋数棟が所在した。

長屋門の鏡柱、冠木は城門よりかなり細い造りである。家老級屋敷でもこの程度である。

2. 古屋家門は岩村城の何処に所在したか

規模から間口 3 間、梁間 2 間である。藩主邸は絵図で見ると、大扉と左側に潜り門を備えている。藤坂一の門、大手櫓門は、潜り門が右側で違う。現在手元にある資料で見ると、藩主邸の太鼓楼脇の門が一番似ている。

3. 古屋家の屋敷の保存について

古屋家はこの地域の代表的な旧家で、屋敷はその面影を良く伝えている。明治以降の無理な改造箇所は、復元し保存活用するように、取りはかられるようお願いしたい。